



○充実した学びの秋です。

11月3日に行われましたリセオ大運動会では、多くの保護者の皆様にご来校くださり、最後まで応援していただき、大変ありがとうございました。メキシココースとの合同運動会は、子どもたちにとっては貴重な体験であり、多くを学ぶことができたと思っています。さらに44回目へと、今回の反省をもとに、しっかり歴史を繋いでいきたいと思えます。

さて、運動会も終わり、子どもたちは充実した「学びの秋」を迎えました。

11月8日には「ようこそ先輩」の授業で、講師に日本コースの卒業生である建築家 齋藤 瑞希 様をお迎えし、『建築との出会い～見えなかった自分を発見～』をテーマに、小学6年生から中学生に講話をしてもらいました。「将来の夢がなかなか決まらないのは当たり前」というお話の中から、「焦らずしっかり日々の学習に取り組むことが大切ですよ」というメッセージをもらいました。

11月11日には福島県にある野口英世記念館の学芸員 森田 鉄平 様から小学5年生から中学生に講話をしてもらい、野口英世の功績だけでなく、「常に感謝の気持ちをもって人に接していたこと」などを学びました。

11月13日には小学5年生が、クエルナバカにあるNISSANのCIVAC工場を見学しました。担当の東 範彦 様からは、日本人は東さん一人でこの工場を取り仕切っていること、1966年から工場は稼働を始め、半世紀以上の長い歴史があり、メキシコにしっかり根付いていること、メキシコの人々は昔から伝統工芸などが盛んで、手先が器用なことが車づくりに生きていることなどを聞くことができました。

11月15日には、小学1年生と2年生がティオ・ペペに校外学習にいき、ひよこやあひる・ロバや馬と触れ合い、抱きかかえたり、餌をあげたりして、楽しい時間を過ごしながら、生き物への親しみを持つことができました。

○出現した大きなクリスマスツリー

仲良し広場に出現した大きなクリスマスツリー。一週間かけてマンテさんが作ってくれました。街中の家や商店にもクリスマスツリーやトナカイの置物が置かれ、その周りをメキシコ原産のポインセチアが彩り、夜になるとイルミネーションがそれらを浮かびあがらせています。スーパーには、クリスマスカラーである「赤」・「緑」・「白」で包装されたクリスマス用品や、小学高学年生ぐらいの背丈の鉢植えクリスマスツリーも、たくさん売られています。日本でもクリスマスは多くの人が楽しみにしている行事ですが、ここメキシコでは、ほとんどの人がキリスト教と聞いていますので、メキシコ人にとってクリスマスは、特別な祭事なのでしょう。

11月初めの「死者の日」の時にも、アウディトリオの玄関には、大きな祭壇が作られ、周りはマリーゴールドで埋め尽くされました。街中では死者の日のパレードが、盛大に催されていました。こうした本場、メキシコにおける異文化を多く体験し、たくさん感じてもらいたいと思えます。また、ポインセチアやマリーゴールドと、クリスマスや祭事との関連なども調べてみたら大変おもしろいと思えます。